

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

見能林小学校  
「学力向上実行プラン」

- 1 相手にわかりやすく自分の考えや思いを表現し伝え合うことのできる授業づくり
- 2 ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境の整備・学習指導の工夫

学力向上推進員 委員 校長:岩川計成 教頭:竹治直樹 教頭:清田朝美 教務:古川圭三  
1学年主任:井上智子 2学年主任:田上晶代 3学年主任・研修主任:横手里佳  
吉岡 万里 4学年主任:宇野貴美恵 5学年主任:山田孝 6学年主任:森岡沙緒里  
特別支援コーディネーター:福長裕江

校長  
岩川 計成 印

【小中連携における共通の取組】  
(1)知識・技能の習得

児童・生徒の主体的な学びを展開するため、MetaMojiClassRoom を積極的に活用した授業を実践し、互いに参考となる実践を共有する。

【各校の取組状況の把握について】

・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施  
・学年団による話し合い後、文書報告

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●身に着けた力を活用する力が弱い。 ●集中の継続が難しく、「聞く」ことが十分でない。	・学習準備を整え集中して学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識技能を確実に身に着ける。 ・習得した知識・技能を学習や生活の中で活用できる。	・曜日を設定し朝の活動で、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・短作文や日記指導、新聞記事の読解など学年や学級で取り組む内容を決め、書く力を養う。 ・タブレットの活用について研修を行い、積極的(毎日)に授業等で活用し、児童に慣れさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ホワイトボードなどを活用して自分の考えを表現できるようになってきた。 ●自分の考えや思いを筋道を立てて、相手に分かりやすく話したり書いたりすることが難しい児童がいる。	・自分の考えを整理して、順序だてて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表すことができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。	・一日一回程度、思考につながる主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを話し合う時間をとる。 ・一日一回程度、ホワイトボード、思考ツール、タブレットを活用する授業を行い、考えたり意見を交流したりする時間をとる。 ・個別の支援について共通理解を図り、個に応じた支援を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。	・直接体験やICT等を積極的に活用し、児童が活躍できる場を多くつくる。 ・授業の振り返りを自分の言葉でノートやタブレット等に記し、次時の学習に生かす。 ・児童の実態把握を行い、個別の支援を工夫する。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

